エールホームクリニック長岡／Doctor's interview

皮膚科医たちの医療イノベーション

患者さんとの信頼関係がすべて

医療の最前線で活躍する3人の皮膚科医が、新しい医療の可能性を切り拓いています。どのような志で、どのような医療に取り組んでいるか、全4回にわたりインタビューを行います。2回目は、田中真百合先生にお話を伺います。

田中 真百合先生
（たなか まゆり）
皮膚科医師
●専門医・資格
皮膚科専門医
（日本皮膚科学会認定）
●好きな言葉
「自分らしく」

第2章 美容皮膚科は治療の選択肢を広げる

編集部（以下、編）：まず初めに、田中先生が専門とする治療を教えていただけますか？

田中先生（以下、先生）：主に、美容皮膚科を専門としています。

編：美容皮膚科と一般皮膚科の違いは、どんなところでしょうか？

先生：一般皮膚科は、皮膚の疾患を治癒させることが目的で、美容皮膚科は、肌の悩みを解決するのが目的となります。また、美容皮膚科の視点を持つことで、肌の症状がより詳しくわかることもあります。例えば、解剖学的に見て肌がなぜ盛り上がってしまうのか、なぜたるむのかということは、通常の保険診療内だと病気として認識されていないので、原因がはっきり示されないこともあります。治療方法も保険診療だとある程度限られてしまいます。美容皮膚科では、そういった知識や経験、設備や機器があることによって治療の幅が広げられます。

編：美容皮膚科では、どんな治療ができるのでしょうか？

先生：シミ・そばかす・肝斑や小じわ、毛穴の開き、ニキビ跡など、お肌に関するお悩み、そしてムダ毛の脱毛、薄毛治療、ほくろ・イボの除去、巻き爪矯正など幅広く対応しています。

編：患者さんは、どんなお悩みで来院される方が多いですか？また男女比に差はありますか？

先生：美容関係でいうとシミなど肌の悩み、保険診療関係だと治りづらい湿疹やかゆみが多いですね。男女比でいうと、女性の患者さんが多く来院されます。

編：女性特有のお悩みは、女医さんの方が打ち明けやすいということもありますよね。

先生：そうですね。市外から女医を探して来院される方もいらっしゃいますよ。

「プライバシーが守られた空間で安心した診療を」

編：美容皮膚科の場合、周りに知られたくないという気持ちを持つ方もいると思うのですが、その辺りの対策はいかがでしょうか？

先生：当院では美容専用の待合室があるので、処置までの時間を安心してお過ごしいただけます。また、レーザー室や手術室が個室になっているので、カーテン越しに隣の患者さんの話が聞こえてくる心配もありませんし、パウダールームもあるので施術後の身だしなみを整えられます。呼び出しやお会計での流れも保険診療と同様です。

編：通常の診察と同じ流れで診ていただけるのは、とてもありがたいですね。そもそも、美容皮膚科での治療は、費用面や副作用などを考えると少し勇気がいると思うのですが……。

先生：まずは気軽にカウンセリングを受けてみてください。施術するかは持ち帰ってゆっくり考えてもらって構いません。不安や疑問があれば、なんでも聞いてください。施術を無理に勧めるようなことは一切ありませんのでご安心ください。

「患者さんが"納得した治療"を受けるために」

編：皮膚や肌悩みの場合、慢性的に悩んでいる方も多いのではないでしょうか。

先生：仰る通りです。そうした患者さんには生活環境や日常のスキンケアなどを可能な限りお聞きして原因を探りながら患者さんと一緒に考えていくようにしています。

編：生活習慣の中に原因があるなんて、自分では気づきにくいですよね。習慣を変えるのはなかなか難しいです。

先生：そうですよね。ですので、患者さんの生活環境や習慣などを踏まえたうえで、考えられる選択肢は可能な限り説明するようにしています。それぞれの治療の副作用や期待できる効果、美容治療ですと痛みやダウンタイムや料金の違いについて詳しく説明した上でお選びいただくようにするなど、患者さんが納得した治療ができるよう心がけています。

編：選択肢を与えられても、なかなか判断が難しい場合は、先生におまかせしてしまってもよいのでしょうか？

先生：もちろん構いません。そんなときでも、患者さんの不安を少しでも減らし、安心して治療を受けてほしいので、患者さんの疑問がなくなるまで診療は丁寧に行うよう心がけています。

「一番効く治療ではなくその人にあったベストな治療を」

編：先生は言葉の端々から『患者さんとの信頼関係』を大切にされていることが伝わってきます。前回（本紙2024年2月10日号）、先生にインタビューをさせていただいた際も"患者さんとの信頼関係を大切にしている"と仰っていたのが印象的でした。

先生：信頼関係がなければ、適切な治療は難しいと思っています。どの疾患でも治療の継続が大切ですが、信頼関係がなければ患者さんの自己判断で飲み薬の回数を減らしたり塗り薬を塗る回数が守られなかったりして、自宅での治療が疎かになってしまうかもしれません。患者さんの要望を引き出すうえでも、できるだけリラックスして診察や施術を受けられるように温かい雰囲気づくりや安心感に繋がる声かけを心がけています。

編：先生はしっかり目を見て話してくださるので、その言葉には説得力があります。先生の治療は、患者さんの要望を聞き出し、その方にベストな治療を探してくださるというイメージでしょうか？

先生：そうできるように心がけていて、オーダーメイドな治療を目指しています。ですので、必ずしも一番効く治療がベストな選択とは限りません。例えば、ベタベタした薬は避けたい、薬を飲む回数は少ない方が良い、痛いのは避けたい、テープは貼りたくない、早く治してほしい、料金は抑えたいなど患者さんの様々な希望に沿って、最適な治療をご提案いたします。個々人に合わせて無理なく続けていける最適な治療を一緒に探していけるような患者さんにとって身近な存在でありたいと日頃から考えています。

次回は皮膚科医の梅森先生による単独インタビューを行います。

教えてドクター！

Q 乾癬（かんせん）で治療していますが症状を繰り返しています。もっとよくなる治療法はないのでしょうか

〈エールホームクリニック 長岡〉
皮膚科医師
梅森 幸恵
皮膚科専門医
レーザー専門医
がん治療認定医

A 乾癬はカサカサした白いかさぶたを伴う皮疹を慢性的に繰り返す疾患です。肥満、メタボリック症候群は悪化原因になりますので、治療には生活習慣の改善も大切です。塗り薬を基本とし、症状に応じて光線療法や内服療法を併用しますが、効果が不十分な場合には分子標的薬（生物学的製剤、JAK阻害薬、TYK2阻害薬）をおすすめします。採血や画像検査を行ったうえで、症状やライフスタイルにあった薬剤を選択します。

ここがポイント！ POINT! **生活習慣の改善をお伝えするとともに、ライフスタイルにあった薬剤を処方します。**

Q 最近顔のできものが盛り上がってきて気になるようになりました。

A 顔の隆起する皮膚病変として母斑（ほくろ）、脂漏性角化症（老人性のいぼ）、尋常性疣贅（ウイルス性のいぼ）、脂腺増殖症、皮膚癌など良性のものから悪性のものまで様々あります。治療方法も手術やレーザー、液体窒素など病気の種類によって異なるため、まずは診断が大事になります。診断後に、それぞれ適切な治療を提示させていただきます。ほくろだと思っていたものが皮膚科を受診してみたら皮膚癌だったという例もあるため、まずはご相談ください。

〈エールホームクリニック 長岡〉
皮膚科医師／医学博士
松井 彰伸
皮膚科専門医
日本皮膚科学会認定

ここがポイント！ POINT! **できものの種類が何かによって治療法が異なるので、まずは診察が大切！**